

植物と人々の博物館メールマガジン

第 74 号 2021 年 3 月 29 日発行



野川周辺の崖線や公園の花々は春の美しい衣装でした。沢山の子どもたち、老若男女、いろいろな国から来てこの地に住んでいる人たちが野川谷を満喫しています。幼児の歓声や鳥たちのさえずりで心は幸せになります。「季節の花々」では、ささやかな散歩道や日帰り探索もこの1年間掲載してきました。身近なところに多くの種類の野生種、園芸品種が咲いていました。あまりに多くてまとめ切れていない月もあります。

www.millettimplic.net/weedlife/flowers.html

星座はめぐって、土の時代から風の時代に移りました。旅に出られなかったので、内面への道（ヘッセ）、インナー・トランジションに旅していました。H. サピエンスの歴史は大嵐に見舞われていますが、この冒険・探検を熱意と勇気をもって乗り切りましょう。地平線や水平線の先に、真の文明、生き物の文明が見つかるまで、ゆっくりでも歩いて行きましょう。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び励まし合いたいです。ぜひ一緒に、植物をめぐる生物文化多様性の保全のための調査研究や普及活動に参加していただけると嬉しいです。

1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日：引き続きヴァイラス対策のため**休館**しますが、御用のある方は御連絡下さい。

2) 雑穀の種子継ぎ：

小菅では秋子さんの丹精で良い種子が十分採種できましたので、是非栽培していただきたく、本年5～6月に播く種子（アワ、キビ、モロコシ、ヒエ、ハトムギ、シコクビエ）を差し上げます。

藤野の宮本茶園でも、種子継ぎしています。メールでご住所をお知らせください。

3) 民族植物学ノオト： 第14号は電子版で、3月末に発行しました。主な内容は次の通りです。 [oto.No14.pdf\(ppmusee.org\)](http://oto.No14.pdf(ppmusee.org))

自然観察をめぐる天と地への旅	渡辺隆一
降矢静夫俳句集：躑躅やしお	安孫子昭二編・解説
コロナ禍を起点とする身近な生活におけるデジタルトランスフォーメーションとデジタル化による新しいネットワーク形成への期待	西村俊
山村農人の教養～降矢静夫 20 世紀末の山里暮らし～	木俣美樹男
日本のムラ社会における撥撫発生の事例分析	文福洞先斗

第15号の原稿募集、締め切りは11月末頃です。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。国会図

書館にも収録されています。

バックナンバーは僅少ですが、希望者に無料で差し上げます。メールマガジンもすべて記録してあります。

www.ppmusee.org/goods.html

4) **電子書籍**：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。これら出版物は国立国会図書館の e デポに登録され、公開されます。

発行及び近日発行予定：一部公開中：上記ウェブサイトで読めます。

発行：『孤独と孤立～ムラ社会の撥撫に抗う心の構造と機能』（黍稷農季人）。

[Microsoft Word - dihdE.docx \(ppmusee.org\)](http://www.ppmusee.org/dihdE.docx)

予定：『山村農人降矢静夫対談集』（降矢静夫・木俣美樹男）

一部公開中：『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、『日本雑穀のむら』、『第四紀植物』は順次公開しています。“Essentials of Ethnobotany”の一部公開はまだ先になります。これらは書き終えたら、電子出版にします。

5) 寄稿など

木俣美樹男 2021、クリンネス連載随筆、正月歳神様を寿ぐ植物、春に招く桃の節供、五月晴れ端午の節句、続く。

6) 植物と人々の博物館基金 PPMFoundation

大口寄附ではなく、1円からする募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために始めたいです。

2. 雑穀街道普及会：

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければ嬉しいです。趣意書や会則など、「街道美味」は下記のホームページをご覧ください。会費は任意、会の規模が大きくなり、事務経費が必要になるまでは求めません。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統も継承されません。

全国各地の伝統的雑穀栽培継承者が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。

2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。現在は第

5 章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/milletn/jnmpilvil.html>

3. 環境市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作りたくです。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学びあう市民連合大学をネット上に創立したいと思ひます。原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。ただ、学び合いたい人々が存在するだけです。学ぶ意味や大学について改めて考え直したいです。

このサイバー大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加を求め、ご連絡を願ひます。

<参考；日本村塾教育>農民が高い学問を身に付けなければ、民主主義は衆愚政治になると考へて、ケンブリッジのカレッジをモデルとした「生のための学校」を求めた。生きた言葉で語り合ひ、それぞれの生を深めていくことが目的であれば、資格や試験、単位などは不要だとグルントヴィ（N.S.F.Grundtvig）は考へた。デンマークの国民高等学校は1844年に最初の試みが始まった。内村鑑三は、平林広人からデンマークのことを多く学び、平林にこの世でなすべき最後の仕事である興農学園を託して、1930年に他界した。

<http://www.millettimplic.net/essey/nihonjuku.pdf>

4. 自然文化誌研究会

主な活動予定：詳細は下記ウェブサイトにあります。

5月3～5日 冒険学校スタッフ研修会、小菅村

8月5～11日 こすげ冒険学校、小菅村

9月25～26日 INCHまつり、小菅村

5. 他団体

小金井環境市民会議：小金井市環境条例に基づく市民団体 CSO

武蔵野公園は野川の流れを挟み、野川公園や国際基督教大学の森を隣接し、一帯となつて都市近郊において稀有の広さで自然的景観を育んできている。この親愛なる故郷は都民・市民の幸せ豊かな日々の暮らしを支え、大勢の老若男女が野外遊びや学びに訪れ、楽しんでいる。野川、国分寺崖線や武蔵野公園を横断する道路計画については、環境市民会議として2016年に東京都へ「都道3.4.1号、3.4.11号の整備計画の中止を求める要望書」を提出しており、2021年に重ねて小金井市長ほか関係行政機関へ意見書等を提出した。

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、藤盛礼恵（千葉、運営委

員)、川上香(長野)、渡辺隆一(長野)ほか

公式HP:植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務幹事 メールマガジン発行:木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村/ミューゼス研究会/トランジション小菅**(山梨県小菅村):

代表 亀井雄次(山梨小菅村)

**自然文化誌研究会**:代表 中込卓男(東京)、副代表 中込貴芳(東京)、小川泰彦(埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長:黒澤友彦(山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

~~~~~